

社会学

1 構成員

	平成13年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
助手（うち病院籍）	0人（人）
大学院学生（うち他講座から）	0人（人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合計	1人

2 教官の異動状況

佐藤 弘明（教授）（期間中現職）

3 研究業績

	平成12年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（編）
(6) 国際学会発表数	0編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. SATO, H.: The potential of edible wild yams and yam-like plants as a staple food resource in the African rain forest. African Study Monographs, Suppl. 26: 123-134, March 2001.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. YAMAUCHI, T., SATO, H., and K. KAWAMURA: Nutritional status, activity pattern, and

dietary intake among the Baka hunter-gatherers in the village camps in Cameroon. African Study Monographs, 21(2): 67-82, April 2000.

- D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 佐藤弘明：バカ・ピグミー．世界民族事典（綾部監修）所収，弘文堂，2000.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. SATO, H.: The potential of edible wild yams and yamlike plants as staple food resources in the African tropical rain forest. in "A Study of Multi-Ethnic Societies in the African Evergreen Forest" (ed. H. TERASHIMA): a report on the project (08041080) by Grant-In-Aid for International Scientific Research, The Ministry of education, Science, Sports and Culture. pp.19-28, 2000.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の

共同研究)

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

4 特許等の出願状況

	平成 12 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 12 年度
(1) 文部省科学研究費	0 件 (万円)
(2) 厚生省科学研究費	0 件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	1 件 (30 万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	平成 12 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	0 件
(3) 学会座長回数	1 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件

(3) 座長をした学会名

第 30 回ホミニゼーション研究会 犬山

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 12 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 12 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 12 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞 (学会賞等)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 人類の生息環境としてのアフリカ熱帯雨林の可能性

ヒトは果たして農耕なしに熱帯雨林で生存可能かどうか、また、熱帯雨林を荒廃させることなくどれだけの人間がそこで生存可能か、という課題を検討するためにコンゴ共和国北部、カメルーン国南部の熱帯雨林地域においてここ 10 数年野外調査に従事している。1994 年 1996 年には代表者として、1998 年、1999 年には分担者として文部省科学研究費の支援を受けた。成果の一つは、カメルーン南部の熱帯雨林における野生ヤマノイモ各種の分布、現存量が推定され、野生ヤマノイモが農耕に依存しない狩猟採集生活を支える有力な食物資源としての可能性が示されたことである。これは、平成 10 年に国際学会で発表され、12 年度に刊行された (原著 1)。さらに、2000 年 1 月には、現地でもっとも信頼すべき資源とされているにもかかわらずそれまでの調査では検証できなかったヤマノイモ *Dioscorea praehensilis* の大きな現存量が確認され、近い内に刊行される予定である。今後は、ヤマノイモなどの根茎食物以外の有力食物資源として各種の果実・種実、とくに豆、ナッツ類の分布、資源量、さらには、

動物，とくに哺乳類・魚類についても同様に調査を進め，熱帯雨林の環境収容力について検討する。

2. アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の民俗医学

1987 年以来，上記熱帯雨林地帯に住む狩猟採集民 Baka の生態・文化についても調査研究を継続しているが，とくに，近隣農耕民とは異なった病因論，疾病論，民俗薬学から構成される民俗医学について注目してきた。病因論については平成 10 年度に刊行したが，疾病論については平成 13 年度に刊行予定である。また，疾病対処行動，民俗薬学に関しても平成 13 年度中に刊行する予定である。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

研究成果 1 を参照

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

熱帯雨林がヒトの進化の舞台としていかに関わってきたか。これは初期人類の進化の舞台がサバンナとされてきた従来の考え方が疑問視されるようになった現在，人類進化学上もっともホットな問題の一つとなっている。熱帯雨林狩猟採集民として知られるピグミーの起源問題，すなわち，ピグミーは熱帯雨林の先住民か，はたまた農耕民とともに熱帯雨林に住み始めた人なのか，はその点からも国際的に重要な問題として注目されている。また，熱帯雨林の食物や薬物などの有用資源は，樹木伐採が進むアフリカの熱帯雨林の保護対策として持続的利用を考える上で重要な資料を提供できる。熱帯雨林の保護対策を人間と森の共存という形で推し進めようとする考え方は欧州で根強く，我々の研究はそういう意味でも注目されている。

15 新聞，雑誌等による報道